

「ホストファミリーは、わたしを家族のように受け入れてくれた」と話す子がいます
「相手を思いやる心と、新しいことに挑戦する勇気をもたらった」と話す子がいます
「言葉は違っても『何を伝えたいのか』を感じ合うことが大切」と話す子がいます
中学2・3年生33人が参加した本年度の中学生海外英語研修
通じない言葉、異なる文化、慣れない環境に戸惑いながらも
大きな「何か」をつかみ取って帰ってきた子どもたち
異国の地で、何を学び、感じ、得たのでしょうか

ホームステイとは

外国の家庭に一定期間滞在することをホームステイといいます。現地での生活やホストファミリーとの交流を通して、異国の語学や文化、習慣などを学びます。

ホームステイの期間中、滞在者は家族の一員として過ごします。自分の意見はきちんとホストファミリーに伝える、相手の言葉もしっかりと聞く、

できるだけファミリーと一緒に時間を過ごすなど、互いに時間を共有し、理解し合うことが充実したホームステイには不可欠です。

異文化の中に身を置き、他人と一緒に暮らすことで、新たな自分を発見したり、新たな考え方に合ったりと、貴重な経験が盛りだくさん。語学力だけでなく、積極性や思いやりの心など「人間力」をはぐくむことにも

つながります。

12回目の海外英語研修

本町は旧町の時代から、中学生を対象とした海外英語研修を実施してきました。10代前半の感受性豊かな時期に、異国の文化や生活習慣に触れることで語学力を磨き、国際性をはぐくみ、さらには本町の良さを再発見するなどの狙いがあります。本事業は平成9年度からスタート。本年度で12回目を迎えました。

研修先はカナダ・ブリティッシュコロンビア州・バンクーバー。カナダとアメリカの国境沿いにある、自然豊かで海が美しい町です。

昨年度、新型インフルエンザの影響で渡航を断念した15人の生徒も今回のメンバーに加わり、総勢33人が旅立ちました。

充実した研修を

本研修の壮行会は7月20日、山村開発センターで開かれました。保護者や関係者が集い、旅立

ち前の生徒たちにエールを送りました。佐藤公敏町長は「研修では初めてのことが多く、期待と不安でいっぱいだと思います。将来につながるような研修になることを期待しています」と、子どもたちに激励の言葉を送りました。

参加生徒からは「現地の人たちと積極的に話をしてきたい。特に日本や川根本町のことについて話したい」「食文化や生活習慣の違いを見て体験して、お互いの良いところを見つめたい。それが自分の町の良さに気づくきっかけになると思う」などの抱負が述べられました（広報9月号から）。

何をつかむか自分次第

子どもたちはカナダの美しい環境の中で、現地の学校を訪問したり、人々と触れ合ったりしながらさまざまなことを学びます。どんな体験を、どのように成長し、どんな表情で帰ってくるのでしょうか。

語学力を磨き
国際性をはぐくむ
海外ホームステイ研修

海の向こうの教室

海の向こう、はるか彼方にある川根本町に向かってハード（心）を送る参加生徒。町民の心に届いたでしょうか。